

特発性正常圧水頭症 (iNPH)

特発性正常圧水頭症 (以下、iNPH) は、歩行障害、認知症、尿失禁の3つの症状を呈する高齢者の水頭症です。歩行障害がはじめに現れることが多く、症状が進むにつれ3つの症状が重なってきます。適切な診断と治療で症状を改善することができます。



特発性正常圧水頭症に見られる髄液の不均衡な貯留

特発性正常圧水頭症 (iNPH) は見逃されやすい疾患です。

【症状】

iNPHは、60歳以上の方で頭部CTやMRIにて脳室と呼ばれる部分に髄液が過剰に貯留していることを確認し、歩行障害や認知症、尿失禁のうち一つでも疑われる場合専門医の診療が必要です。

年のせいとして受診せずにいると歩行障害による転倒・骨折のリスクが増え、尿失禁によっても外出が難しくなります。更に症状が進むと歩行困難となり、意欲・注意力の低下も進んで寝たきりになります。

歩行障害が先に現れ、認知症や尿失禁が伴ってきます。3つの症状すべてがそろうのは、60%程度とされています。

自覚症状やご家族の気付きなどで症状を認めたら早めに受診することが大切です。

◆歩行障害



イラスト：ほんとうの時代 PHPより

歩幅の減少 (小刻み)、足の挙上低下 (すり足)、開脚歩行 (外股) の3つが特徴的です。

歩くのが遅くなり、特に方向転換の際に不安定となります。

また止まることができず転倒し、立ち上がれないこともあります。

[歩行障害の改善動画へリンク](https://inph.jp/movie.html)

<https://inph.jp/movie.html>



● 特発性正常圧水頭症 (iNPH) の歩行障害の症状

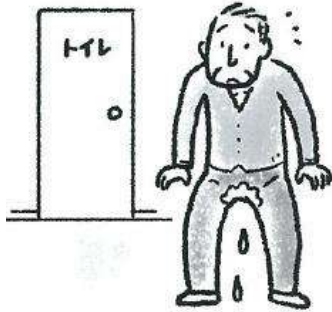
水頭症	普通	パーキンソン病
 開脚・小刻み・すり足		 小刻み

◆認知症



意欲や注意力の低下および記憶力の低下が特徴的です。
30%に怒りっぽくなります。
進行してくると全般的な認知障害をきたします。

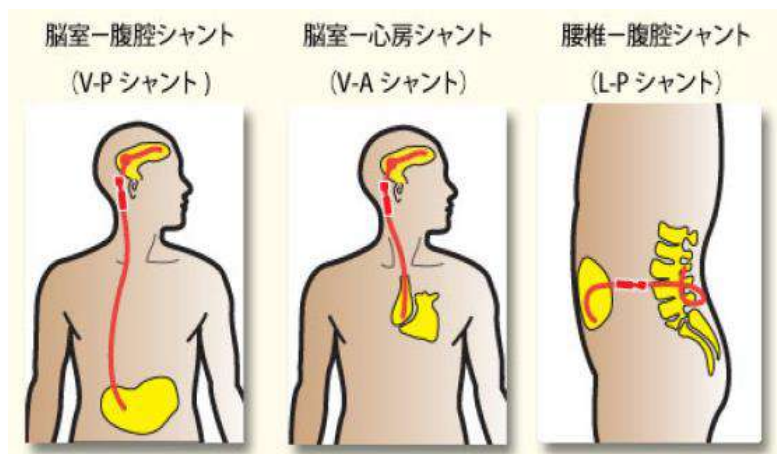
◆尿失禁



iNPHでの尿失禁は、頻尿から始まります。トイレまで我慢できないで出てしまうようになり、外出することが難しくなります。蓄尿量が減少するとの報告もあります。

【治療】

治療はシャント術という髄液のバイパス手術を行います。日本では15,000例程度実施されている基本的な脳神経外科手術です。図のように大きく3つの方法があり患者さんの状態によって選択されます。



【症状の気付きが大切】

症状の初期のほうが治療効果は高いことが分かっていますので、症状が疑われた場合は早めにお近くの専門医（脳神経外科、神経内科）に受診してください。

症状のチェックリスト

症状のタイプ	状態	チェック
歩行障害	小刻みに歩く。すり足で足が上がらない。	<input type="checkbox"/>
	足が開き気味に歩く。	<input type="checkbox"/>
	不安定で転倒することがある。	<input type="checkbox"/>
認知症	もの忘れ。	<input type="checkbox"/>
	一日中ぼんやりする。趣味などをしなくなった。	<input type="checkbox"/>
	呼びかけに対して反応が遅くなった。 表情が乏しくなった。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
尿失禁	頻尿である（トイレが近い）。	<input type="checkbox"/>
	尿意切迫（我慢できない）で失禁してしまう。	<input type="checkbox"/>

歩行障害を中心に症状が現れたら要注意です。